

市立函館病院高等看護学院 学校関係者評価委員会報告

2023 年度学校関係者評価委員会は、感染予防の観点より委員会を開催せず学校関係者(卒業生)へ直接問い合わせを実施して意見を回収した。

1.市立函館病院高等看護学院で学んだことで卒業後、役立ったこと

臨地実習における様々な経験(看護技術の実践、アセスメント)が、就職時に心の余裕につながった。また、救急看護・災害看護で学んだトリアージや重症度・緊急度に沿った臨地実習の経験が、勤務場所で活用できた。日常においては、学びの習慣が身につき就職後も継続的に学ぶ姿勢ができた。さらに、人間関係の大切さも学ぶことができた。それが、就職後の職場スタッフとの良好な関係を築くことにつながった。

2.就職後、学院のカリキュラム(教育課程)に組込まれていたら役に立ったと思う授業や演習など(具体的に)

社会人としての各リテラシー(接遇、マナー、お金、社会保障、保険のしくみなど)を学びたかった。受け持ち患者以外の看護を学べる機会がほしかった。また、より具体的な多重課題や「看護とは何か」をさらに深く考える機会などがほしかった。さらに日々、疲労を感じるのでストレスを軽減できる術を学びたかった。

3.学院への要望(授業や実習、学院生活など)

【臨地実習に関して】

臨地実習で軽症、中等症、重症と様々な患者を受け持たかった。就職後にその経験値を活かせるから。そして、看護の深さも学ぶことができるため。また、臨地実習にはシャドーイングを取り入れてほしい。

【学生生活に関して】

学生全員で参加できる催し(学院祭や部活動など)を復活してほしい

以上